

全東京写真連盟
撮影会写真コンクール
入賞作品集



審査対象 臨海副都心モデル撮影会

撮影日 2022年06月19日

審査日 2022年08月06日

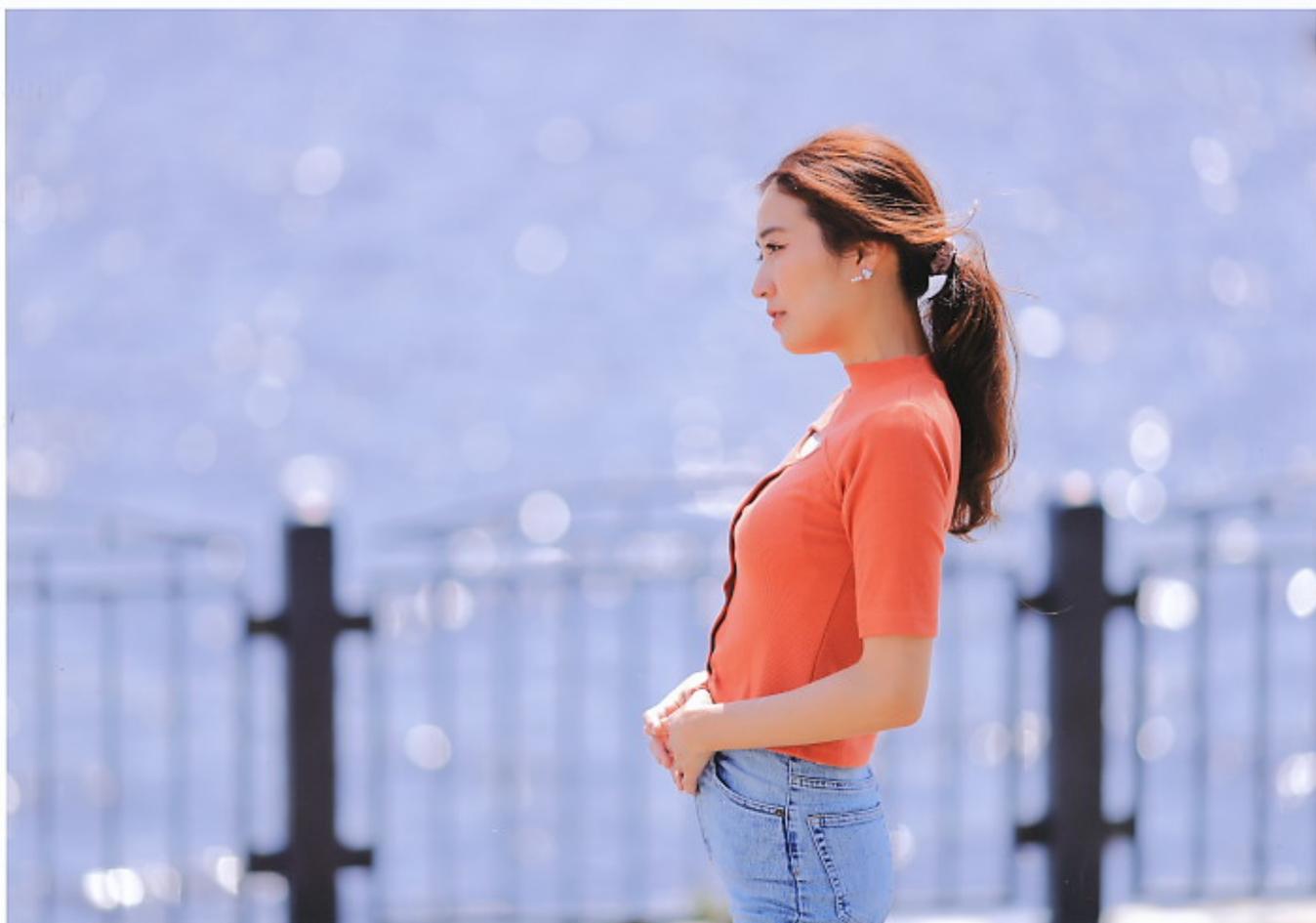
審査員: HARUKI先生



金賞
「銀の馬に乗るように」
岸野 孝博 様
モデル 山下 明穂

審査員：HARUKI先生 講評

モデルさんが腰掛けているオブジェを「銀の馬」に例えられたのでしょうか？だとしたら素晴らしい想像力の賜物ですね。こうしたオブジェを使う場合はオブジェの形状がわかるような角度からの撮影ポジションが多いのですが、ここでは別のアプローチをされたことが実を結んだ結果として良い作品が生まれました。絞りも開放値ではなく若干絞ったことからの効果かと思われそうですが背景の樹木のボケ感も自然体で気持ちが良いボケ具合です。一見すると無表情のようにも見えるのですが髪の毛のちょっとした揺れる動きなどから凜とした気持ちの良さが伝わる上質な作品です☆



銀賞
「女ひとり」
中牟田 剛 様
モデル 根本 美里

審査員：HARUKI先生 講評

憂いを秘めた淋しそうな横顔、海面に逆光のきらめきはあるけれど海の色はブルーでなぜかもの悲しい印象だなんて思いながら応募シートを確認してみたら「女ひとり」というタイトルでした。まさに演歌の世界の具現化ですね、素晴らしい（笑）。どちらかといえばニコパチの応募作が多い中でたまに違ったテイストの作品があると目を惹きますね。背景のポールとモデルさんとの位置関係もうまく計算されています。念のため勘違いされないように記しておきますが選者は演歌ファンでは御座いませんで2 匹目のドジョウはありません（笑）



銅賞
「爽やかな風」
佐久間 裕史 様
モデル 山下 明穂

審査員：HARUKI先生 講評

おそらく金賞作品と同じ場所での撮影かと思われませんがアチラとはまったく別のタイプの写真表現となっています。音楽ジャンルに例えるのなら金賞作品は軽やかなポップスでこちらはジャジーなバラードといった感じでしょうか（笑）。同じ場所とシチュエーションで撮影しても人によってちょっとしたアングルやイメージの違いを表現出来るところが大撮影会ならではの面白いところですね。ややブルー系に転がした色味も作者の意図するところを感じ取る事が出来る上質な作品となりました。



入選
「見つめられたい！」
堤 博史 様
モデル 山下 明穂



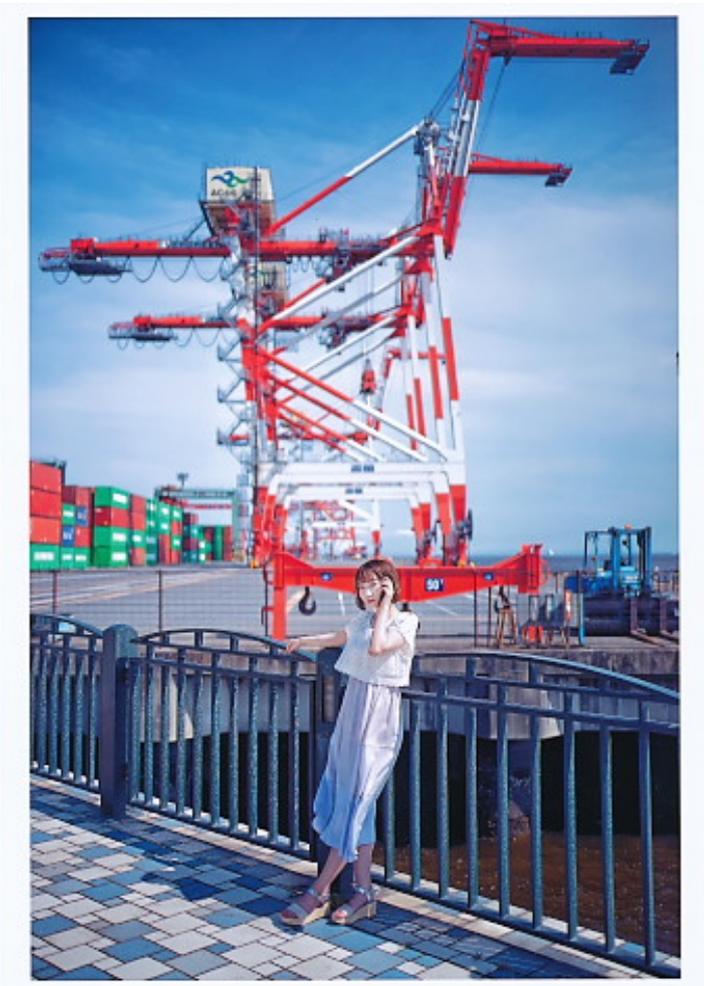
入選
「午後のまどろみ」
石川 玲 様
モデル HIMECA



入選
「見つめる眼差し」
米沢 健二 様
モデル 根本 美里



入選
「見つめて」
小幡 大輔 様
モデル 青田 幸



入選
「鉄の麒麟」
高橋 壯太 様
モデル 福田晴香



佳作
「緑風の魅惑」
菅原 道久 様
モデル HIMECA



佳作
「帽子の女」
湯原 章綱 様
モデル 根本 美里



佳作
「昼顔」
小倉 良二 様
モデル 高畠祈莉



佳作
「光を受けて」
滝本 憲一郎 様
モデル 山下 明穂



佳作
「初夏の海辺」
内藤 勝之 様
モデル 山下 明穂



佳作
「六月のメモリー」
小野寺 基之 様
モデル 根本 美里



佳作
「木漏れ日」
金澤 義夫 様
モデル 根本 美里



佳作
「振りかえり」
井原 亮祐 様
モデル 根本 美里



佳作
「夏を抱いて」
飯田 太 様
モデル 山下 明穂



佳作
「渴きを癒して」
北条 喜久 様
モデル 愛乃音子



次点
「ときめく時」
佐土原 光司 様
モデル 山下 明穂



次点
「みつめる女」
荒井 秀雄 様
モデル HIMEGA



次点
「ノイズ」
高橋 敏之 様
モデル 根本 美里



次点
「目線」
豊田 光司 様
モデル 根本 美里



次点
「ひとりぼっち」
山田 栄一 様
モデル 福田晴香



次点
「イキでオシャレ」
齋藤 貴生 様
モデル 根本 美里



次点
「スポットライト」
鵜飼 典彦 様
モデル 山下 明穂



次点
「夢で逢えたら」
成田 誠宏 様
モデル 山下 明穂



次点
「悲しみの忘れ方」
星野 祐一 様
モデル 長谷部 彩



次点
「ほほえみ」
増田 耕 様
モデル 山下 明穂

【 F 値（絞り）の選択 】

皆さんこんにちは。しばらく審査の間が開いてしまいましたがお元気ですか。
今回はポートレート撮影時の大口径レンズの絞り値について考えてみたいと思います。
撮影会でのモデル撮影のレンズとして多くみかけられるのが70-200mmF2.8ズームをはじめとして85mm や105mm、最近では135mm などの明るい単焦点望遠系レンズで絞り開放で撮影されているかと思います。いわゆるポートレートレンズとして王道のチョイスかと思います。それ自体は何の問題もないのですが一つ気になることがあります、、、、それが絞り値の選択です。
せっかく高いお金を払って大口径レンズを買ったのだから「ボケ量が大きい最大口径である開放F 値で撮りたい」と思われるのはボク自身もそうですし人情（ひと）としてよく理解（わか）ります。しかし、ボケ量が多ければそれだけで良いのでしょうか？何も考えずにF1.2 とかf1.4 とかの絞り開放絶対主義のようになっていませんか？
上位入選作品を見てもレンズの特徴を理解している方は1/3 絞りとか半絞りとか若干絞ることによって画質を引き出しつつ、合焦領域を広げて使われているなど感じました。ボク自身もレンズレビューなどで必ずと言っても良いくらい開放絞りでの撮影を行っていますし自分でも多用します。それはレンズ性能や表現が最も解りやすいからです。もちろん開放値を使うことが決して悪いわけではありません、むしろ考えがあつての絞り開放値での撮影は必要ですし大歓迎なのです。レンズが仮にF1.4 のレンズだとしましょう。昔と違ってデジタルはすぐに確認出来るので開放F1.4、F1.8、F2、f2.8、f3.5 と少しずつ絞りを変えて撮ってみるとピントの合う範囲や画質の変化がわかると思いますので、その撮影目的に沿った絞り値を選んでみたら良いと思います。
大口径レンズ＝即開放絞りではなく適材適所で使ってみましょうという提案でした☆

HARUKI